

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観
建物名称	竜之介動物医療センタービル新築工	階数	地上4F
建設地	熊本市中央区本荘六丁目49-1、49-2	構造	S造
用途地域	市街化区域・準防火地域	平均居住人員	180 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、物販店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年7月 予定	評価の実施日	2012年11月2日
敷地面積	1,302 m ²	作成者	吉永 拓郎
建築面積	889 m ²	確認日	2012年11月7日
延床面積	2,901 m ²	確認者	伊東 正太郎



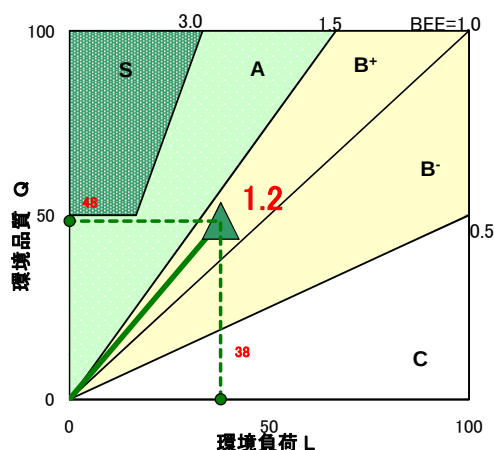
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.2

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

81%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

81

評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

88.3

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

71.2

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

83.2

■ 熊本県重点評価基準

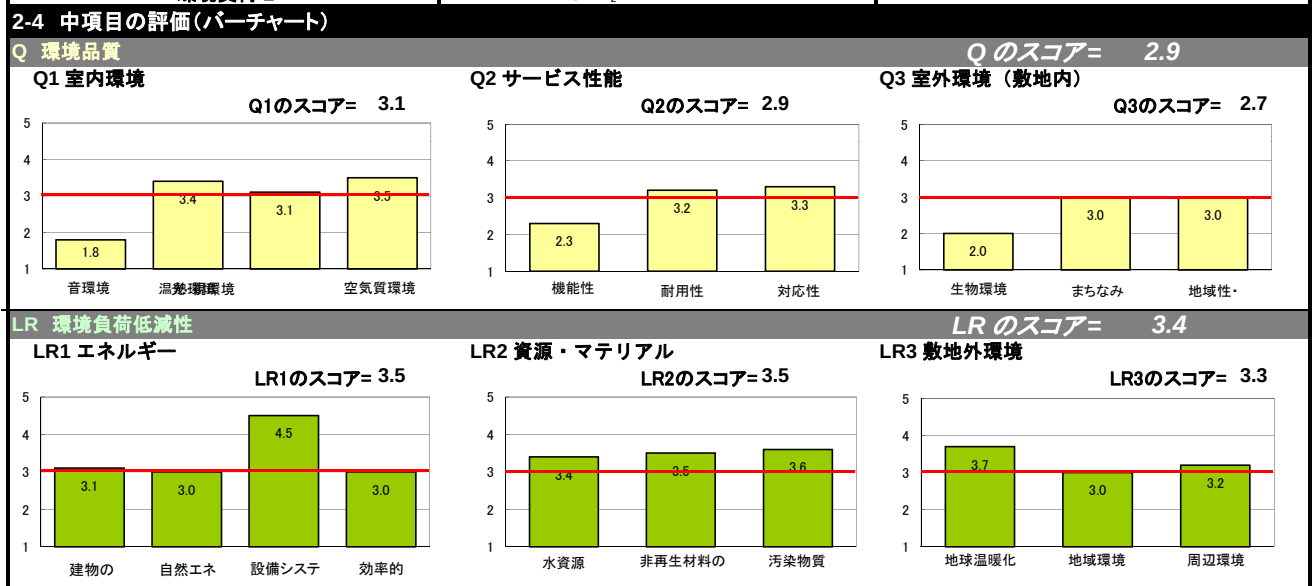
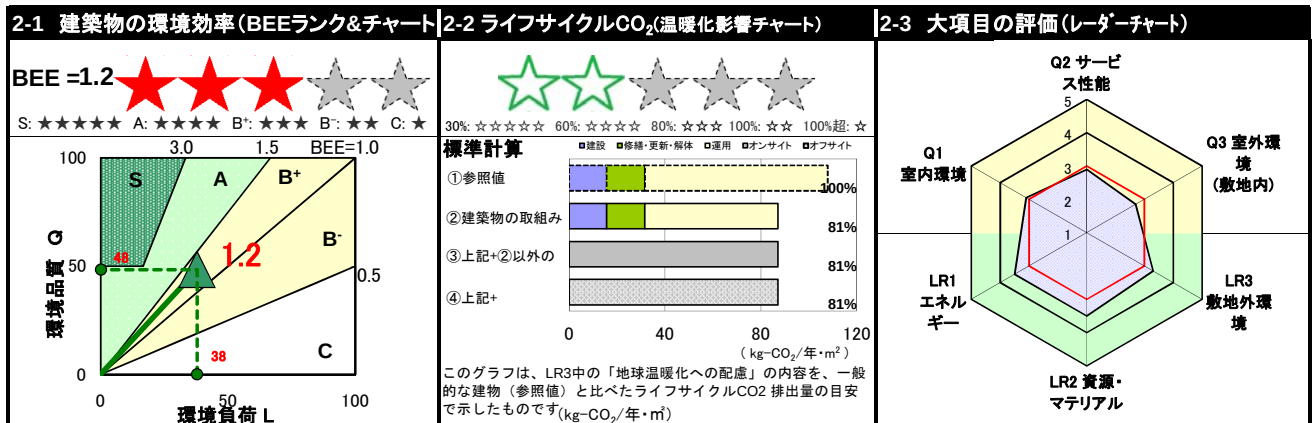
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]熊本《新築》【評価結果】

■ 使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	竜之介動物医療センタービル新築	階数	地上4F
建設地	熊本市中央区本荘六丁目49-1、49	構造	S造
用途地域	市街化区域・準防火地域	平均居住人員	180 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年7月 予定	評価の実施日	2012年11月2日
敷地面積	1,302 m ²	作成者	吉永 拓郎
建築面積	889 m ²	確認日	2012年11月7日
延床面積	2,901 m ²	確認者	伊東 正太郎



■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
竜之介動物医療センタービル新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.37			3.1
1 音環境		1.8	0.15	-	-	1.8
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.73	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.27	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		3.4	0.35	-	-	3.4
2.1 室温制御		3.9	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.41	-	-	
2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能	【店舗】【事務所】【工場】主要な窓に複層ガラス	4.0	0.23	-	-	
4 ゾーン別制御性	【店舗】【事務所】【工場】ビルマルチエアコン(集中リモコン)	5.0	0.36	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 種別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用		3.4	0.36	-	-	
1 昼光率	【事務所】2.87% 【工場】2.10%	4.0	0.41	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.59	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.21	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3 眩り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.10	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.33	-	-	
4 空気質環境		3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	【店舗】【事務所】【工場】F☆☆☆☆の積極的な採用	4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.4	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.38	-	-	
2 自然換気性能	【事務所】0.09 【工場】0.115	4.0	0.24	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.38	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.9
1 機能性		2.3	0.40	-	-	2.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.23	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.23	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.54	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		1.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	【店舗】【事務所】【工場】共用部にコンセント設置、清掃用流し	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31	-	-	3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	【店舗】【事務所】【工場】3種でBを使用	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	【店舗】【事務所】【工場】屋内受変電設備(25年)	4.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-	-
2.4 信頼性			3.5	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	【店舗】【事務所】【工場】節水型器具の採用	4.3	0.20	-	-	-
3	電気設備	【店舗】【事務所】【工場】自家発電設置、浸水の危険なし(地上設	3.6	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	【店舗】【事務所】【工場】LAN設備、浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			3.6	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	【店舗】【工場】平均階高:3.9m【事務所】階高:3.75m	4.0	0.60	-	-	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	-
3.3 設備の更新性			3.3	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性	【店舗】【事務所】【工場】更新・修繕ができる(地下ピット)	5.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性	【店舗】【事務所】【工場】更新・修繕ができる(天井点検口)	5.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性	【店舗】【事務所】【工場】更新・修繕ができる(天井点検口)	5.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.33	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制			【店舗】【事務所】【工場】西面一部に複層ガラス	3.1	0.22	-	3.1
2 自然エネルギー利用				3.0	0.22	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化			高効率設備機器の採用	4.5	0.33	-	4.5
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			ERR=26.4%	4.5	-	-	-
集合住宅の評価				3.0	-	-	-
4 効率的運用				3.0	0.22	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			【店舗】【事務所】【工場】自動水栓・節水型機器	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.63	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生クラッシャーラン、再生密粒度アスファルト舗装	4.0	0.20	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	【店舗】【事務所】【工場】壁:軽鉄、天井:軽天	5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール使用	5.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			高効率の設備機器を採用	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
3	交通負荷抑制	【店舗】【事務所】【工場】管理者用駐車スペースの確保(隣地)	4.0	0.33	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	【店舗】【事務所】【工場】光害対策ガイドライン項目の過半を満足	5.0	0.70	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-

CASBEE[®]熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建物の南側は、住居が隣接しているため近隣への影響を考慮し、南側の高さを3階に抑える計画とした。
建物の主要な窓にペアガラスを採用し、室内の快適な環境づくりに努めた。また、可能な限り敷地内に緑地（地被）を設けた。

Q1 室内環境

- ・ 建築基準法規制対象外となるF☆☆☆☆の建築材料を採用。
- ・ 主要な窓にペアガラスを採用し、外皮性能を高めた。

Q2 サービス性能

- ・ 用途変更に対応可能な階高に設定し、建物の自由度を高めた。
- ・ 更新必要間隔の長い配管を採用し耐久性の向上に努めた。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 周辺の景観に配慮し、調和のとれた立面計画を行った。
- ・ 敷地内に可能な限り緑地を設け、環境負荷や安らぎなど視覚的効果を高めた。

LR1 エネルギー

- ・ 外部に接する屋根、壁、床全てにグラスウールを採用し、断熱性能を高めた。
- ・ LED照明など高効率機器を採用した。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 躯体と仕上材が容易に分別可能な工法とし、解体廃棄時のリサイクルが促進されるよう配慮した。

LR3 敷地外環境

- ・ 施設利用者数に適した駐輪、駐車スペースを敷地内に計画した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 竜之介動物医療センタービル新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		81.2
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				88.3	0.40	35.32
Q1-2.1.3	外皮性能	4.0	0.07			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.1	0.11			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.5	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				83.2	0.20	16.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数